

会 議 録

1 会議名

令和元年度第6回直江津区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【協議事項】

地域活動支援事業（追加募集）について（公開）

3 開催日時

令和元年8月20日（火）午後6時00分から午後7時20分

4 開催場所

上越市レインボーセンター 第三会議室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員： 青山恭造（会長）、竹内明美（副会長）、増田和昭（副会長）、
青山義一、泉 秀夫、磯田一裕、伊藤邦雄、今川芳夫、坂井芳美、
田中美佳、田村雅春、中澤武志、丸山朝安、水澤敏夫（欠席4名）

・事務局： 北部まちづくりセンター：滝澤センター長、小池係長、霜越臨時職員

8 発言の内容

【滝澤センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【青山恭造会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：伊藤委員、今川委員に依頼

議題【協議事項】地域活動支援事業（追加募集）について、事務局へ説明を求める。

【小池係長】

- ・資料No.1 「令和元年度直江津区地域活動支援事業提案書（追加募集）受付一覧」に基づき説明

【青山恭造会長】

それでは提案No.1から順番に協議していきたいと思う。

「No.1 福島城の顕彰事業」についてはどうか。

【田村委員】

2点ほど伺いたい。

1点目は発電機や物品の管理方法は、きちんとされるのか。

2点目は今年の1月から12月まで1か月単位の入場者数はどうか。

【小池係長】

管理方法については、会員が責任をもって管理し、使用する際に持ってくると聞いており、使用回数は年間10回程度である。

入場者数については、こちらも把握していないため、提案者へ確認する。

【磯田委員】

私自身、今の状態を見に行っていないので評価のしようがないのだが、そもそも、市の施設で発電機を使ってまで臨時的に照明で照らすこと自体が考えられない。今、建物を貸し出している市として、会場に対して照明が使えない理由があるのか。

【泉委員】

元は「デイサービス古城」という福祉施設で、現在は建物があるだけで、電気も水も使えない。

【滝澤センター長】

施設が廃止となったので電気設備等については使えない状態となっている。電気等を使うとなると提案団体が光熱費等を支払わないといけなくなるため電気は一切使わないという形で活動されている。ただ、冬場になると暗くなるのが早く、照明が必要となるが、電気代を払うよりも発電機を持ち込んで必要な時のみ照明を点けて使いたいということで提案された。

【田村委員】

市としては廃止している施設のため、取り壊すということになったら、提案団体はどうするつもりか。いろいろな設備を買っても、その後、利用価値がなくなると問題だと思うので、将来の見通しをどのようにしているのか聞きたい。

【泉委員】

借りているのは古城小学校の1階である。2階は教室があるので1階を撤去するということはあり得ない。

【青山恭造会長】

他に意見を求めるがなし。

次に、「No.2 直江津小学校区地域安全・防災教育推進事業」についてはどうか。

【田村委員】

提案書に「学んだことの感想を発表し、共有する」とあるが、昨年度も同じ提案をされている。全ての町内が参加していないのは確かだが、昨年度はどのような総括だったのか。事業を実施すること自体は良いと思う。それを否定するつもりはないが、どういった関わりで全町内が参加できなかったのかを含めて、お聞きしたい。

【青山義一委員】

直江津小学校区の町内の中で、避難場所が直江津中学校、もしくは直江津中等教育学校になっている所がある。子ども達が学校にいると想定した場合に、それぞれ子ども達は避難所が違う。その辺についてどのように会のほうで対処するのかをお聞きしたい。

【中澤委員】

当事業については直江津小学校を指定緊急避難場所としている町内だけが参加する。そのため、指定緊急避難場所となっていない町内は参加しない。

私が聞いている範囲では、昨年3町内くらいで一緒に行った。地域住民と一緒にやるというところにポイントがあるので、そのような捉え方をしたほうが良いと思う。

【泉委員】

避難場所は行政から指定されるのではなく、町内で話し合いを行った上で町内の皆さんがどこへ行ったほうが良いかを選ぶ。

先ほど、大人と子どもで日中いる場所によって避難所が違ってくるといった話があったが、それ以上に避難所を開設する訓練を行うということに大きな意味があると思っている。

【青山恭造会長】

いつ、どこで災害が起こるかわからないが、今回は直江津小学校で行うということである。

次に「No.3 直江津区子ども健全育成事業」について意見を求めるがなし。

次に「No.4 安全・安心な緊急避難支援事業」についてはどうか。

【田村委員】

3点ほど伺いたい。

1点目は、提案内容について、いつごろから提案団体である直江津地区町内会長協議会で話があったのか。それに対して上越市はどういう課題を提起したのか。これはどこでも言えることで、直江津だけの問題ではないので確認したい。

2点目は、投光器3台を9か所の避難所に設置したいと提案書に記載されているが、1か所にどれくらいの間隔で3台置くのか。

3点目は、提案書に投光器を設置する場所が記載されているが、加賀町と石橋、新光町3丁目が抜けている。その避難所の扱いはどうするのか。

【伊藤委員】

五智地区では国府小学校が指定避難場所となっており、国府2丁目町内会館が指定緊急避難場所となっている。ただ、加賀町は春日区の避難場所へも行けるようになっていたため、国府小学校に避難する町内としては加賀町が入っていない。石橋についても、そういう流動性のあるようになっている。国府小学校に指定はされているが、全員が避難してくるわけではないということである。

【田村委員】

実は、石橋と新光町3丁目は春日中学校か上越市総合体育館が指定避難場所となっている。

【泉委員】

避難場所は町内の皆さんから希望を聞いた上で町内会が決めた避難場所である。市が指定したものではない。

【磯田委員】

提案書の事前協議の欄に危機管理課と記載されている。今までは、提案書一覧の資料に課の所見が載っていたと思うが、上越市は防災関係の備品に関して、どういうスタンスでいるのか。今まで備品やハード面の部分を揃えていくことに対して、どのように判断したら良いのかというところがあったので上越市の判断を聞いてみたい。

【小池係長】

担当課の所見については、現在、依頼している段階だが、危機管理課との話し合いの中では、市として充電式投光器を購入することはできないが、補助金を使って買っても

らうことに関しては問題ないのではないかとのお話があった。

【磯田委員】

防災士としての泉委員にお聞きしたい。投光器というものは非常に必要なものだと思うが、市として整備が間に合っていないと思う。本来、行政として揃えるべきもの、あるいは安心・安全のための準備として備えておくべきものというふうに判断しても良いものかどうか、意見を伺いたい。

【泉委員】

指定避難場所には、市として投光器を2台、発電機を1台、燃料タンクを1台準備している。しかし、いざという時にすぐに発電機を付けて投光器が使えるかといったら全く使えない。そのため、今回の提案では充電式となっている。これは、特異な場所である直江津にとっては重要なことである。

【田村委員】

提案書には「充電式投光器で避難経路（主に避難所付近）・避難所に明かりをともし」と記載されている。つまり避難経路も含めて明るくするということか。

【泉委員】

先般、津波注意報が出されたが、その際に各避難所へ行ってみた。その際、街路は大体良いと思うが、外から敷地内に入って体育館等まで行くための経路が暗いのではないかと感じた。

【中澤委員】

レインボーセンターに非常食等は備蓄されているか。

【滝澤センター長】

レインボーセンターの備蓄品は1階の多目的ホールに備蓄庫があり、その中に発電機や毛布、食品等も備蓄されているとのこと。

【磯田委員】

運用についてだが、防災士直江津支部会員の協力により、各避難所によって訓練を実施すると提案書に記載されているが、実際に運用や設営する人は各町内の人なのか。それを防災士の人達が教えるのか。あるいは防災士の人達が連携をとって、実際に避難所設営までやるのか。

【泉委員】

基本的に避難所の開設は、一番早く着いた人が行う。例えば小学校の場合、津波が来

ますよとなっても、すぐに市の職員は来ない。行政が来て開けなければいけないというのは、認識違いである。町内の人が避難所を開け、運用していかなくてはならないが、市の職員が来るまで、どのように過ごすかである。町内の誰かが投光器を点けられるようになっていけば良い。

【田村委員】

春日中学校の場合、関係町内と学校側とで年2回ぐらい、有事の際に、どのようにするかの話し合いをしている。震度4弱以上で避難所の開設の準備のために鍵を持ってすぐに来る。そのため、教頭先生が常に鍵を持っており、学校の近くに住んでおられる。ほかの先生方も何名かは近隣に住んでおり、すぐに対応できる体制作りをされている。訓練も年に2回行っている。

【青山恭造会長】

地域の方々や行政、施設長が鍵を持っている。しかし、その人達がすぐに来られるというわけではない。先般の地震の際も鍵が開いていなかったということがあった。結局、早く行った人が開けるということになる。

【磯田委員】

現状はわかったが、投光器等を購入してきちんと運用できるのかということである。きちんと体制を作っていないと難しいのではないかと。ソフト面も含めて対策をしなければいけない。訓練を行うとしているが、その詳しい内容を知りたい。

【青山恭造会長】

それは質問していただきたい。

【田村委員】

確かに運用面で、誰がいつ、どのように行っていくかが疑問である。

【泉委員】

港町の例だが、市の職員は近くに住んでいる人が配置されている。だが、実際に最初に着くのは住民である。青山恭造会長も言われたが、港町の場合も鍵は3か所で保管している。その上で、学校へは津波の際、ガラスを割って入りますと言ってある。

【伊藤委員】

今、避難のことでいろいろ話が出ているが、学校の関係については、市でも人事異動があるので、田村委員がおっしゃったように年に2回ぐらい顔合わせも兼ねて防災関係の打ち合わせをする。その時に、いろいろな話が出てくるが、泉委員がおっしゃったガ

ラスを割って入るといふわけにはいかないので、必ず行ったら、中に入れるか入れないかの確認を全周囲にし、入られる状況になってから初めて「開設をしました」ということになり、ほかの住民が避難してくる。

国府小学校については、セブンイレブンと小学校、市が鍵を持っているが、住民が鍵を持って行って、建物を全部見て点検して入るようになるか、ならないかという判断を素人がするのは難しい。そこで各町内会では、警戒班という班があるが、実際に訓練を行い、そこで無線を飛ばして、避難場所の準備ができたので避難させて良いと本部長に報告があれば住民の皆さんが出ていくという体制を作っている。それぐらいやらないと有事の際に動けないので、疑似訓練でもしない限り駄目だと思う。

【滝澤センター長】

事務局で提案を受付する際に伺っているのは、各避難所には発電機や投光器が置いてあるが、避難所に行って誰でも簡単に使える充電式の投光器が良いのではないかということになり、今回の提案となった。そして、避難所付近にも投光器を設置し、経路をきちんと照らしたいということだった。

備品を購入して、それをどのように地域の安全・安心に生かすかということ、今回はじめて夜間、停電時を想定した訓練を行うということになっている。訓練を通して、みんなが地域の安全を考えていきたいというのが、この提案の趣旨でもある。

運用方法は各町内会長が主体となり、地域の皆さんに説明したり、一緒に行ったりする中で、もっと良い方法が見出されるかもしれないということも含め、検証していきたいというお話だった。

【青山恭造会長】

ほかに意見等はないので、全体協議については終了とする。

次に、今後のスケジュールについて、事務局へ説明を求める。

【小池係長】

- ・今後のスケジュールについて説明
- ・各提案者へ地域協議会として質問したい事項を確認
- ・次回の協議会：9月3日（火）午後6時から

【増田副会長】

1点報告したい。

当初募集の際「上杉謙信公の城下町 文豪の町直江津にぎわい事業」が提案されてい

たが、8月4日（日）に「加賀大聖寺藩参勤交代ウォーク」が上越市を訪れた。上越タイムス等でも一生懸命取り上げていたが、このイベントに協力した市内の関係者の人と話す機会があった。

当事業については高校生が企画した事業で、単に540km歩くだけが目的だったと
のことで、来年以降のことは何も考えていないとのこと。

高田では盛り上がっていたが、高田を過ぎたら盛り上がりは欠けていたということだ
った。

関係者の人は、実際に高校生が考えていたことと、行った内容については乖離があっ
たのではないかとお話されていた。だが、せっかく行った事業なので事業をきっかけに
来年に向けて、昔の宿場町をつないだ何かができれば良いというお話もされていた。

【青山恭造会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。